

# 公益財団法人 神澤医学研究振興財団「神澤医学賞」を贈呈

## 東大・廣田泰准教授が受賞

### 着床障害の病態解明と新規診断・治療法の開発

講演会では、産科・贈呈されました。婦人科学の研究分野で、廣田泰准教授は、妊娠・先見的・独創的研究に、より顕著な功績をあげた研究者に贈られる神澤医学賞(研究褒賞)を受賞し、第25回神澤医学賞を受賞した東京大学大学院医学系研究科産婦人科学准教授 廣田泰准先生に授賞状を贈呈しました。

着床は、胚対位、胚着床、胚浸潤という多段階の連続した過程を経て初めて成立する生理学的現象であることと、胚着床ではLIF、LIF受容体、転写因子STAT3が関与していることをそれぞれ明らかにしました。さらに着床後の妊娠維持のための子宮の機能調節因子が脱落膜の細胞老化と酸化ストレスおよびプロスタグランジン産生を抑制して、早産を防止する作用を持つことも明らかになりました。また着床障害の新たな診断法の開発として、着床能に特異的な分子マーカーを同定しました。着床障害の新たな治療法の開発では、子宮内フローラ異常と慢性子宮内膜炎を合併する着床障害患者への乳酸菌剤(サプリ)の子宮内細菌叢改善効果を検証するランダム化比較試験を開始しています。一方、子宮機能異常を引き起こす子宮疾患である子宮腺筋症の研究では、子宮腺筋症がゲノム異常を伴う多クローン性増殖疾患であること、並びに妊娠・分娩とKRAS変異との関連性を明らかにしました。

いずれも生殖医学・周産期医学の両者の観点で質の高い研究であり、産婦人科学における俯瞰的研究として当該分野で世界をリードし、医学発展に貢献してきたことが高く評価されました。



神澤医学賞を受賞した廣田泰准教授(右)と神澤理事長

### 贈呈にあたり

廣田先生、この度は神澤医学賞のご受賞、誠にありがとうございます。廣田先生のご研究は、先見性、獨創性に富んだ神澤医学賞に相応しい内容でありました。当財団を代表いたしましたとして、深甚なる敬意を表します。

少子高齢化が経済社会に深刻な影響を与えることが懸念される今、

公益財団法人 神澤医学研究振興財団  
理事長 神澤 陸雄

### 医療面からの少子化対策を後押し

神澤医学研究振興財団は、日本における最も深刻な課題の一つである少子・高齢化問題に対し、女性の健康保持、増進を図るための産科および婦人科医療の分野における医療面からの貢献を目的に1997年6月に設立されました。以来、周産期および高・老年期の女性に発現する各種疾患に関する成因、予防、診断、治療などに資するための多角的な研究の奨励事業を行っています。設立にあたっては、当時のキッセイ薬品工業代表取締役会長・神澤邦雄の私財と、同社から創業50周年を記念して資金が提供されました。2010年に内閣府公益認定等委員会より公益財団法人への移行認定を受け、「公益財団法人神澤医学研究振興財団」へ移行しました。

これまで(1997~2022年)に神澤医学賞24件(7100万円)、研究助成257件(3億2200万円)、海外留学助成98件(4900万円)の褒賞・助成事業が行われ、その研究成果は広く公表されて医療・医学の発展に寄与しています。



財団の概要 (2023年3月31日現在)	
名称	公益財団法人 神澤医学研究振興財団
所在地	〒399-8710 長野県松本市芳野19番48号
行政庁	内閣府
設立	平成9年6月27日
公益財団移行	平成22年7月1日
主たる出捐者	故・神澤邦雄、キッセイ薬品工業株式会社
設立経緯	当時のキッセイ薬品工業株式会社代表取締役会長神澤邦雄からの私財の提供、およびキッセイ薬品工業株式会社からの創業50周年を記念しての資金提供により設立。
基本財産	1,813,070,000円
設立目的	周産期を中心とするリプロダクティブ・エイジ(出産適齢期)および高・老年期の女性に発現する各種疾患に関する成因、予防、診断、治療等の多角的な研究の奨励等を行うことにより、医療・医学の発展を図り、もって国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とする。
事業内容	設立目的達成のため以下の事業を行う。 (1) 研究助成 (2) 海外留学助成 (3) 優れた研究成果に対する褒賞(神澤医学賞) (4) 講演会等の開催 (5) その他本財団の目的を達成するために必要な事業
研究褒賞・助成計画	神澤医学賞(研究褒賞) 1件500万円 1件 研究助成 1件250万円 10件 海外留学助成 1件100万円 4件

ホームページをリニューアルしました

https://kanzawa-f.kissei.co.jp

神澤医学研究振興財団 検索

KANZAWA MEDICAL RESEARCH FOUNDATION